

## 3 手立ての具体の例（詳細は「研究報告書」参照）

## (1) 中学校（1年生）での実践

単元名	: Program 8 <i>Origami</i> (Sunshine English Course 1)
単元の目標	: インタビューを通して分かったことを,相手に伝えることができる。
本時の目標	: インタビュワー, 有名人になりきって, インタビューすることができる。
研究に関わる本時の手立て (3 / 7 時間目)	
○導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と教師によるデモンストレーションを示し, ゴール像を可視化する。手立て1</li> <li>本時のゴールとなる話題について, Teacher Talk を行う。手立て3</li> <li>バックワード・デザインをもとに, アウトプットまでに必要な活動をスモールステップで設定し, 黒板に示し可視化, 共有する。手立て1</li> </ul>
○展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビュー場面の話題を, 生徒の興味や実態に合わせて設定する。手立て2</li> <li>ペア活動において, 生徒同士によるロールモデルを提示させ, 学習意欲を喚起し, ゴールに向けた活動の質の向上を図る。手立て1</li> <li>練習の成果を生徒全員に発表させる。手立て1</li> </ul>
○終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれが到達目標どのくらい近づいたか, 自己評価させる。手立て1</li> </ul>
※全体に関わって	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が英語で話させる時間を多く確保するため, 活動の説明は日本語で短く行う。手立て3</li> </ul>

## (2) 高等学校（1年生）での実践

単元名	: Lesson 7 Flying Wheelchairs (COMET English Communication I)
単元の目標	: 車いすを直す高校生になりきって, インタビューでやりとりをすることができる。
本時の目標	: ペアで, 登場人物になりきってインタビューができる。
研究に関わる本時の手立て (3 / 7 時間目)	
○導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と教師によるデモンストレーションを示し, ゴール像を可視化する。手立て1</li> <li>バックワード・デザインをもとに, アウトプットまでに必要な活動をスモールステップで設定し, 黒板に示し可視化, 共有する。手立て1</li> </ul>
○展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す力」を高めるために, インタビューとそれに対するコメントという具体的な言語活動を設定する。インタビューの内容は, 教科書本文に出てくる高校生を踏まえたものとするため, 教科書本文の理解が前提となる。手立て2</li> <li>教科書の内容説明や活動の指示ではなるべく英語を使い, 生徒とやりとりしながら進める。手立て3</li> </ul>
○終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習の成果をペアで, リハーサルと本番の2回発表させ, 到達目標に向けてそれぞれの程度できているかを自己評価する機会を設定する。手立て1</li> </ul>
※全体に関わって	<ul style="list-style-type: none"> <li>極力英語を用いて指示等を行うが, 英語で話させる場面を多く確保するため, 指示を生徒の理解度に応じて, 日本語を使う場面もある。手立て3</li> </ul>

研究の具体については, 当センターの Web からダウンロードできます。(http://www1.iwate-ed.jp/)

## 研究主題 中・高等学校英語科における「話す力」を高めるための指導の在り方に関する研究

【研究担当者】 高橋成周 松本 諭

【この研究に対する問い合わせ先】

電話 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

### I はじめに

文部科学省が公表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」によると, 中学校においては「英語で授業を行うことを基本とし, 内容に踏み込んだ言語活動」を行うこと, 高等学校においては「英語で授業を行うとともに, 発表, 討論, 交渉など高度化した言語活動」を重視した授業への改善が求められており, 中でも, 自分の気持ちや考えを伝える「話す力」の育成がより一層望まれています。

しかし, 全国的に「話す力」を高めるための生徒の実態に応じた授業改善が, 十分行われていない現状があります。県内の中・高等学校の授業を参観すると, 生徒に身に付けさせるべき「話す力」の明確な目標がないままに授業が行われていたり, 目標を生徒と共有しないままに授業が進められていたりすることもあります。また, 生徒同士が英語を用いて伝え合う言語活動が, 授業の中で設定されない場合も見受けられます。

このような状況を改善するためには, 中・高等学校において, 「話す力」における系統的な学習到達目標をもとに授業を組み立て, 授業を英語で行うことで英語の発話量を増やし, 自然かつ十分なコミュニケーション活動を行うことができる言語使用場面の設定をすることが必要であると考えます。

そこで, この研究では中・高等学校英語科において, 考えや気持ちを伝えあうなどのやりとりする「話す力」を育成するために, 授業実践を通して「話す力」を高める授業づくりの理論を明らかにし, 授業理論や授業のモデルプランをまとめ, 中・高等学校英語科の授業改善を進めようとするものです。

### II 本研究における「話す力」とは

本研究では今後育成すべき考えや気持ちを伝えあうなどのやりとりする「話す力」を, 「聞いたり読んだりしたことについて, 問答しあったり, 意見を述べたりする力」と捉えました。

生徒が問答したり, お互いの意見や考えを述べ合ったりする言語活動を通して, 「話すこと」に対して抱く抵抗感を少なくし, 生徒同士で英語を用いて自分の考えや思いを伝え合うことができるようになるとともに, 話す方法のバリエーションが増え, 話す内容の質が高まることをねらいとし, 研究を進めました。

### III 研究の方法

- 1 先行研究者の文献等からの理論構築
- 2 理論に基づいた授業実践と検証
- 3 研究協力校の先生方や提案授業研究会参加者の意識調査による検証

#### IV 研究の内容

##### 1 研究構想図

「自分の考えや気持ち」を、言語の使用場面や目的を意識して伝える力を身に付けた生徒

###### ■期待する教師の授業改善の姿

- 中・高等学校を通じて、学習到達目標を設定し、生徒と共有しながら授業を行うことができる。
- 生徒が自分のことについて、伝える力の育成を目指した授業を実践できる。
- 生徒が英語に多く触れられるように、学習環境を整えた授業を実践できる。

###### ■期待する生徒の変容の姿

- 見通しをもちながら学習に取り組み、自分の成長を実感できる。
- 場面や目的を意識して、相手とやりとりすることができる。
- 思考力・判断力・表現力が向上する
- 人とコミュニケーションをとることの楽しさを理解できる。

手立て：自分の気持ちや考えを伝える場面を位置づけた授業づくり

###### (1) 中・高を通じて学習到達目標を意識した授業デザイン

- CAN-DO リストを活用し、各学校で実際に行われる学習活動を基に各単元の目標及び評価規準を設定し、これらを意識して授業を実施する。
- 単元を通して最終的に身に付けさせたい姿（ゴール像）から授業を構想する。（バックワード・デザイン）
- 目標の達成状況を把握するための具体的な評価を計画し、単元計画に位置付ける。

###### (2) 言語使用場面の設定による、自然かつ十分なコミュニケーション活動

- 発達段階や校種に応じた問題解決型のタスク活動を行う。  
（場面設定の工夫、語彙・文法の使用のバランス）
- インタビューなどの問答を行うような場面を設定し、英語で考えや気持ちを伝え合う言語活動を設定する。

###### (3) インプット・アウトプット量を増やす、英語で行う授業

- 教室内を実際の英語のコミュニケーション場面にするために、教師は生徒の理解に応じた英語を用いて授業を進める。
- 英語使用場面の具体化（導入におけるゴール像の提示、Teacher Talk、英語による指示の工夫など）

授業を通してどんな「話す力」が身に付くのか、明確な目標に向けて、授業を進めることが必要

###### ■教師の指導実態

- ・「話す力」の明確な目標がないままに授業が行われていたり、目標を生徒と共有しないままに授業が進められたりしていることが多い。
- ・中学校では、ドリル活動は行わせているが、既習事項を基に生徒同士が考えや意見をやりとりする指導は少ない。
- ・高等学校では、文法指導や訳読指導に偏り、英語を用いて意見をやりとりする授業がなされていないことが多い。

###### ■生徒の実態

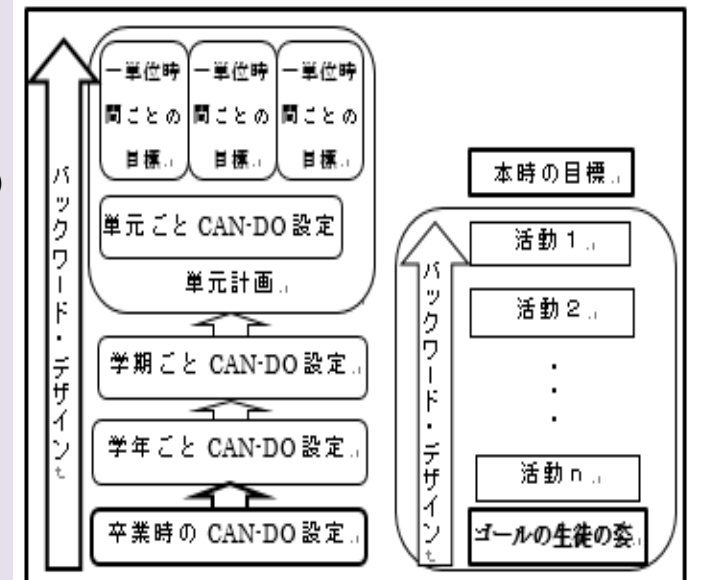
- ・自分にとって、どのような力が身に付いたか、明確なゴールが見えないまま授業に臨み、自分の成長を実感できない場合がある。
- ・場面や目的に応じて、既習事項を基に自分の考えや気持ちを英語で対話する力に課題が見られる。
- ・自分の考えや気持ちをやりとりする機会が少なく、人とコミュニケーションをとることの楽しさを感じられない。

##### 2 「話す力」を高める3つの手立て（詳細は「研究報告書」参照）

### 手立て1

#### 中・高を通じた学習目標を意識した授業デザイン

- CAN-DO リストを活用し、各単元の目標及び、評価規準を設定する
- 単元を通して最終的に身に付けさせたい姿（ゴール像）から授業を構想する
- 【バックワード・デザイン】
- 目標の達成状況を把握するために具体的な評価を計画し、単元計画に位置付ける



生徒が何ができるようになったか、そのためにどんな指導をしたか、日頃から見直すことが大切です。

### 手立て2

#### 言語使用場面の設定による、自然かつ十分なコミュニケーション活動

- 発達段階や校種に応じた問題解決型のタスク活動を行わせる

(例)

- 中学校：授業で学習した文法知識を、実際に運用する能力の育成を目指すことを中心にした活動
- 高等学校：メッセージの意味や、内容を伝えることができる能力の育成を目指すことを中心にした活動

- インタビュー活動などの問答を行うなど、英語で考えや気持ちを伝え合うような、実際の場面に近づけた言語活動を設定する

### 手立て3

#### インプット・アウトプット量を増やす、英語で行う授業

- 教室をコミュニケーションの場にするために、生徒の理解に応じて英語を用いる
  - ・生徒の興味や関心のある話題を取り入れた、英語でやりとりする場面を増やす
  - ・活動の指示や説明は短く行う
- 英語使用場面を具体化し、授業に位置づける
  - ・ゴールとなる英語使用場面を具体的に提示する
  - ・既習事項を用いた Teacher Talk を行う（Q&A を多く取り入れる）